

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	3	(ふりがな) 氏 名	たなか さゆり 田中 小百合
修士論文題目	健康問題による夫婦間の役割・勢力の変化		
<p>【研究目的】健康問題（入院）による家族内役割・家族勢力の変化を明確にする。</p> <p>【研究方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究デザイン：記述・分析する事例研究とし半構成的面接法を用い、入院中と退院2ヶ月後の二時点分析とした。 2. 対象：脳血管疾患による身体機能障害者と透析療法を実施する60歳前後までの患者とその配偶者5組の夫婦に面接を行った。 3. 分析方法：面接内容を逐語記録し、内容を読み取りフレーズ化した。それを家族内役割の6つのカテゴリーに分類した。 <p>【結果】</p> <p>分類したデータを、事例の属性の違い（患者の性別の違い、患者家族の発達段階の違い、退院時のADL自立度の違い、疾患の突発度の違い）に視点を当て、2つのグループとして比較させたところ、家族内役割遂行、役割期待、役割自己認知と家族内勢力の変化の過程や促進要因が明確化された。</p> <p>【考察】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題の発生は家族員の役割分担を変化させ、子世代への世代間勢力移行を早める傾向にある。 2. 健康問題の発生によって家族に患者役割と介護役割を生じることで勢力が移行していた。 3. 入院中の介護役割、家事役割において情緒的拡大家族からのサポートは多く、退院後は減少し配偶者か、家族の一員に集中する傾向があった。 4. 患者の性別、ライフステージ、ADL、疾患の突発度、家族構成、世代間関係の程度は、それぞれが健康問題による家族内役割、勢力の変化に作用していた。 5. 養育期、教育期の妻の健康問題の発生は、子世代への依存や介護期待を生じさせていた。 6. 養育期・教育期にある家族は老親世代が、排出期・向老期家族は子世代が患者夫婦をサポートした。 <p>【総括】</p> <p>健康問題は家族に多彩な役割・勢力変化を及ぼし、家族関係を不安定にさせる。家族機能の円滑な遂行の為には家族の役割・勢力移行や役割問題の存在を見極めた援助が必要である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字以内)
2. ※印の欄には記入しないこと。